

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 はらっぱ学齢期子親療育

公表日 2025年12月11日

利用児童数 24

回収数 6

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	○				もう少し広くしてほしいと本人からの要望です。	子ども1人当たり基準面積の2倍以上のプレールーム等面積を2室整備し、ゆったりとした遊戯スペースで発達支援を行っています。1階プレールーム天井には感覚統合用釣り具器具を設置している。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	○				なし。	1グループ（子ども6～4人）に対して療育支援員3～2人を配置し、全て専門職員（臨床心理士、児童指導員、保育士）を配置しています。子どもの年齢や発達状況も多様なため、療育支援員には思春期にも対応できる者を配置している。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	○				なし。	プレールームの配置、遊具の収納については、環境刺激を少なくし、療育プログラムも視覚的にもわかりやすい工夫をしています。玄関・1階はバリアフリーになっています。2階への階段には昇降機を設置している。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	○				なし。	子どもの感想を聞き感じ取っていく。
適切な支援の提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	○				質問への答えもわかりやすく丁寧で、専門性も高いと思います。	保護者の質問を支援員間でも共有したり、答えに納得されたかに意識を向けるようにしていく。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	○				なし。	説明周知を継続していく。
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	○				いつもとても丁寧に作ってくださりありがとうございます。	継続して計画を検討して、わかりやすかつ子どもの課題に的確で、保護者の方と共有しやすい計画を作成していく。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	○				学校とはらっぱで連絡するときに親としては各々で求める項目が異なると思っています。学校としては個性より、「こなす力」がどれくらいあるのかを気にされます。	保護者への説明や周知、保護者や関係機関との支援内容の共有を図っていく。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	○				なし。	保護者への理解を促し、指摘については検討して返答していく。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	○				臨機応変に対応してもらっています。	活動の段階付けや、アレンジについて日々検討していきたい。支援員も楽しめるような環境づくり（おもちゃや用具の更新など）を行っていく。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。					なし。	交流機会はないので、事業所の祭り行事を開催した際などに、地域の子どもや支援を受けていない子どもたちとの交流や関係者との共通理解を図っていく。
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。					なし。	見学会から説明しているところもあるが、周知を行う。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。					説明あるとき、ないときがありますが、子どもの発散した様子を見る限り、不満はありません	子どもに支援が届くように保護者に丁寧なわかりやすく説明していく。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。		○			なし。	任意の個別面談のみの対応になっているので、テーマ別のグループガイダンスなども企画していく。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	○				(児童発達支援管理責任者)によく相談にのっていただき、助けられました。子ども担当支援員とも共有していただき、助かっています。	伝え合いを継続していく。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	○				助言というか相談面談をして、よく指針を示して下さい、助かっています。	助言役、聞き手役も継続してく。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	○				なし。	子ども、それから保護者の気持ちを汲み取った支援を継続していく。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	○				なし。	親同士の交流やきょうだいへの支援が発達支援を受ける子どもの支援につながるように保護者の方に理解と協力をお願いしていく。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	○				れら訪問療育（保育所等訪問支援）も適切にやって下さり、面談もやって下さり、助かりました。	返答と、確認を誠実にやっていく。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。		○			（児童発達支援のときの）親子タイムがなくなり、二階一階（のプレイルーム）での子どもの様子はわかりません。	できる限り意思疎通と配慮をしていく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	○				都度見せていただいています。	デジタル、アナログ、口頭、書面など保護者に残る、保護者に届く伝達を使い分けたり、複数発信したりしながら目指していく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	○				なし。	留意していく。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	○				なし。	周知・説明を検討していく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	○				なし。	利用者参加の訓練は実施していない。必要に応じてあれば検討していく。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	○				なし。	子どもが表現しやすい環境づくりに尽力しながら、安全確保も工夫していく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	○				なし。	発生予防の取り組みを続けながら発生時の連絡、説明を的確に行っていく。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	○				なし。	子どもさんも親御さんや保護者さんもリラックスして通えるような場所にこれからもしていきたいと思う。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	○				なし。	継続してその子どもにとって楽しみにできる場所づくりに努める。
	29	事業所の支援に満足していますか。	○				今年で五年がたちましたが、はらっぱさんはのびのびと過ごせる特別な場所のようです。これからもまだまだ通い続けたいと（本人は）言っていますので、来年度以降もよろしくお願いします。	継続して子どもに届く、保護者が子どもの成長を実感できるような支援を提供していく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		はらっば学齢期子親教育		公表日		2025年 12月 11日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		1日利用定員10人を2グループ(各5人編成)に分け、1階(47㎡)と2階(50㎡)のプレールームで同時並行で発達療育を行っている。	特になし。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		1グループ(子ども6~4人)に対して療育支援員3~2人を配置し、全て専門職(臨床心理士、児童指導員、保育士)を配置している。なお、子どもの年齢や発達状況(思春期含む)が多様なため作業療法士、社会福祉士など専門性の高い職員を配置している。	特になし。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		プレールームの配置、遊具の収納については、環境刺激を少なくし、療育プログラムも視覚的にわかりやすい工夫をしています。玄関・1階はバリアフリーになっています。2階への階段には昇降機を設置している。	特になし。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		療育終了後、各室の換気と清掃を行い、遊具の消毒も実施しています。療育プログラムに合わせて、その都度遊具等の配置を工夫している。	プレールームの床マットは経年して変形や変色が見られるので更新を検討していく。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		部屋に入ることが難しい時、部屋にすることが難しい時は支援員が子どもと話し、とどまる方法を探してみたり難しいと判断した場合は必要に応じて場所を移動している。	特になし。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者が中心となって、毎日の打ち合わせ、振り返りミーティング等で各職員が意識し取り組んでいる。	特になし。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ガイドラインで示された評価表を参考にし、事業所独自のアンケートを実施しています。その内容を踏まえ業務改善につなげている。	特になし。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		個別面談、年度末の職員研修で把握している。	職員が発言しやすい状況、機会づくり事業所として取り組んでいく。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		今後、児童福祉法障害児通所支援事業に明るい外部評価を受けたいと思う。	依頼先を検討していく。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		年一回の内部研修の実施や外部研修(市乳幼児教育保育支援協働研修など)に参加している。	特になし。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		紙面で全利用者に配布するとともに、ホームページにも公開している。	特になし。		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		各自の発達上の特別のニーズや親子関係を的確に把握し、個別支援計画に反映させている。利用開始時には、親支援員と療育支援員がアセスメントを行う。半年ごとにモニタリング(個別支援計画の見直し)を行っている。	特になし。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		担当支援員も個別支援計画を作成し、グループ支援員や、児童発達支援管理責任者と検討しながら支援計画を完成させている。	特になし。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		児童発達支援計画に沿った支援を行うために年間2クール(前期/後期)とし、半期ごとに児童発達支援管理責任者(担当療育支援員)と保護者との面談で見直している。グループ支援員間でも日々子どもとの関わりを検討し修正しながら支援を進めている。	特になし。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		K式発達検査、S-M社会生活能力検査、ICF(国際生活機能分類)に基づいたアセスメントを行っている。	特になし。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ICFの生活機能相互作用図を下敷きにした個別支援計画書(精神機能・活動・参加・環境因子・個人因子)を作成し、それぞれの子どもの長期目標、短期目標に適した週1回の発達療育を行っている。	特になし。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		子ども5人グループ毎に3人の療育支援員チームで、親子タイム、自由あそび、設定遊び等の療育プログラムを立案している。	特になし。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		発達年齢やグループダイナミクスに応じて療育プログラムを変化させ、季節に応じた年間活動プログラムを組んでいる。	特になし。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		ころぼくらの発達療育は、個別発達支援が基本であり、個別支援計画には小集団遊戯療法による個別支援（情動コントロールなど）が組み込まれている。	特になし。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前には児童発達支援管理責任者を中心にグループごとに毎回ミーティングを行い、役割分担を確認している。	特になし。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後に児童発達支援管理責任者を中心にグループごとにミーティングを行い振り返りを行っている。	特になし。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		療育は担当者制なので各担当療育支援員が療育記録、面談記録を徹底し、今後の支援に活かしている。	特になし。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		週1回通所の療育ではモニタリングも合わせて行っており、半年に1回は支援計画の見直しを実施している。	特になし。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		基本活動を意識し、組み合わせて療育を行っている。	特になし。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		自発性を促す活動支援を行って、子どもの選択や自己決定の機会を生み出すようにしている。	特になし。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		障害児相談事業所ひりかが招集するサービス担当者会議に児童発達支援管理責任者や親支援員、療育支援員がケースに応じて参画している。	特になし。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		ケースごとに必要に応じて保護者の同意のもと、発達検査結果の共有を行ったり、情報交換を行っている。	互いに面談の機会を作って、情報交換や連携を広げていきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		ケースごとに学校などと連携している。	宇治市の小中学校24校との情報共有システムはまだ未整備のため、今後教育と福祉の適切な連携を図ってきたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		就学後に市の保育所幼稚園こども園小学校連絡会で参観懇談を通じたりしながら連携している。	情報共有に努めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		相談支援事業所とも連携しながら情報提供している。	情報提供を行っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		特になし。	連携に協力していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		祭りの開催時に参加した近所の児童との交流がある。	祭りなどの地域とつながる行事などの機会を企画していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		断続的にあるいは単発で参加することはある。	可能な限り連続して参加に努めていく
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		保護者への療育報告に時間的制約があり十分には実施できていない。	保護者への療育報告に時間的制約があり一律に保護者との共通理解を持つことは困難であるが、思春期での発達課題の変化など必要性や重要性が高い時に個別面談で共有することなどに努めていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		学齢期の保護者の親支援ニーズは低く、経営面でも専任の親支援員の確保は非常に困難さがある。	少しでも研修の機会を提供していく。
保護者への説明	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		利用契約時に重要事項説明書に基づき実施している。	特になし。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		療育での子どもの様子や発言からその子どもの意思を判断し、面談で保護者の意向を聞き取っている。	特になし。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		半年に1回は計画書を作成しています。作成後には保護者面談を実施し、その際に計画書の説明を行い同意を得ている。	特になし。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者からの希望時に児童発達支援管理責任者が親支援役となって個別面談を行っている。	特になし。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		積極的に実施はしていませんが、療育時間内の待ち合いやスペースを提供したり、児童発達支援管理責任者がロビーで保護者に声をかたりしている。	特になし。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		児童発達支援管理責任者と子ども担当の療育支援員と連携しながら個別対応をしている。	特になし。

等	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		年4回（季刊）『ころぼくらの家だより』を発行し、館内の掲示板やHP上に情報を掲載している。	特になし。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の外部への持ち出しは原則禁止にしていますが、やむを得ず療育記録を持ち出す場合は上司への申請許可制にしている。データ情報は、法人専用のフラッシュメモリーを利用している。	特になし。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		子どもや保護者が療育支援員との対話や表情を通してコミュニケーション障害やアタッチメント障害についての理解を深め、小集団遊戯療法の中で他児と関わることで気づきや共感を醸成しています。	特になし。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		イベントへの招待や、図書、ギャラリースペースを設け地域住民の方が気軽に来所できるように努めています。	特になし。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを作成し、職員間で共有しています。保護者の方とも共有できるよう努めています。	特になし。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的な避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		府や市の指導に則り、消防や洪水避難計画を作成したうえで、実施しています。	特になし。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		初回面談時等に保護者からヒアリングを実施し、基本情報として書面にしています。	特になし。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		保護者からヒアリングを行い、それを基に一覧にしています。特におやつ提供時には、職員間でダブルチェックしています。	特になし。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		感染症や熱中症、事後などの対策を支援員と共有しながら支援を行っている。	特になし。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		利用のしおりや重要事項説明などの機会に伝えている。	特になし。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		些細な事故も含めて事故報告書が児童発達支援管理責任者に提出されると事業所内で共有している。	特になし。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		府の研修等に参加している。	特になし。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		激しい自傷・他傷行為がある場合、本人のケガを防ぐために毛布等で包むこと、支援員と利用児が活動に注力するためプレイルームのドアをロックすること以外、身体拘束は厳禁している。	プレイルームのドアロックはできるだけなしか最小限にしていきたい。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	はらっぱ学齢期子親療育		
○保護者評価実施期間	2025年]2月26日		2025年4月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 24	(回答者数) 6	
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		2025年12月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 5	(回答者数) 5	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども支援員の専門的で手厚い人員配置と、支援員の子どもへの発達支援の充実とやりがいの醸成と利用者さんの長期に渡る一貫した子ども支援への安心感の提供が長期に渡って何とか持続していること。	専門的で手厚い人員配置。	支援員の働きやすさ、やりがいにつながる雇用環境の改善。
2			
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門的な支援を提供する上での、支援員への負荷の高さ。	支援員の兼務の多さ。	兼務の軽減、解消。
2	利用者との療育目標の共有の困難さが生じうることもあること。	利用者との対話の機会の少なさ、機会づくりの難しさ。	利用者との対話の機会の企画設定。
3			